

もくじ

- ・ ごんぎつね

# ごんぎつね

げんさく  
原作： にいみ なんきち  
新美 南吉

イラスト： かわの まほ

へんしゅう  
編集： YellowBirdProject

ごんは、ひとりぼっちの子ぎつねでした。両親は  
ごんが小さい時に亡くなり、兄弟もいません。シダの  
いっぱい茂った森の、穴の中で暮らしていました。

ごんは、いたずらぎつねでした。山から下りて村に  
行っては、畑に入ってイモを掘り返したり、百姓の  
家の裏手につるしてあるとんがらしをむしったりと、  
いたずらばかりしていました。





ある、秋の日のことです。二、三日降り続いた雨が  
 止み、ごんは<sup>おお</sup>大よる<sup>そと</sup>こびで<sup>と</sup>外へ<sup>だ</sup>飛び出し、<sup>やま</sup>山を下りて  
 行きました。道端の<sup>みちばた</sup>ススキの<sup>ほ</sup>穂には、まだ、<sup>あめ</sup>雨の  
 しずくが<sup>ひか</sup>光っていました。

小川の<sup>おがわ</sup>ほとりまでくると、ごんは、<sup>かわ</sup>川の中に入り、<sup>なか</sup>  
<sup>こし</sup>腰まで<sup>みず</sup>水につかりながら、<sup>あみ</sup>網を<sup>て</sup>手にしている、<sup>ひょうじゅう</sup>兵十  
 を<sup>み</sup>見つけました。

兵十が<sup>ひょうじゅう</sup>網を<sup>あみ</sup>持ち<sup>も</sup>上げると、<sup>あ</sup>中には<sup>なか</sup>草の<sup>くさ</sup>葉や<sup>は</sup>木<sup>き</sup>切れ  
 に<sup>ま</sup>混じって、<sup>ふと</sup>太い<sup>はら</sup>腹の<sup>おお</sup>うなぎや、<sup>はい</sup>大きな<sup>き</sup>きすが<sup>い</sup>入って  
 いました。

兵十は、<sup>ひょうじゅう</sup>とった<sup>さかな</sup>魚を<sup>い</sup>びくに<sup>い</sup>入れ、<sup>どて</sup>土手<sup>あ</sup>に上がる  
 と、また<sup>あみ</sup>網を<sup>も</sup>持って、<sup>かわ</sup>川の中<sup>なか</sup>に入<sup>はい</sup>って<sup>い</sup>行きました。

